

令和3年度  
第4回 球磨川水系学識者懇談会  
説明資料

球磨川流域における取り組み

令和4年3月28日

国土交通省 九州地方整備局  
八代河川国道事務所  
熊本県土木部河川港湾局  
河川課

1. 水害リスク情報の提示について(水害リスクマップの作成)
2. 川辺川の流水型ダム環境への配慮  
(第3回 流水型ダム環境保全対策検討委員会(R4.3.9))
3. 田んぼダム効果等の検証  
(第3回人吉・球磨地域田んぼダム効果等検証委員会(R4.2.18))
4. 令和2年7月豪雨復旧・復興本部会議(第9回)(R4.3.24)

## 水害リスク情報の提示について(水害リスクマップの作成)

---

# 水害リスク情報の提示について(水害リスクマップの作成)

○令和2年7月洪水では、特に人吉区間において洪水流が河道と氾濫域を一体となって流下し、甚大な被害が発生。

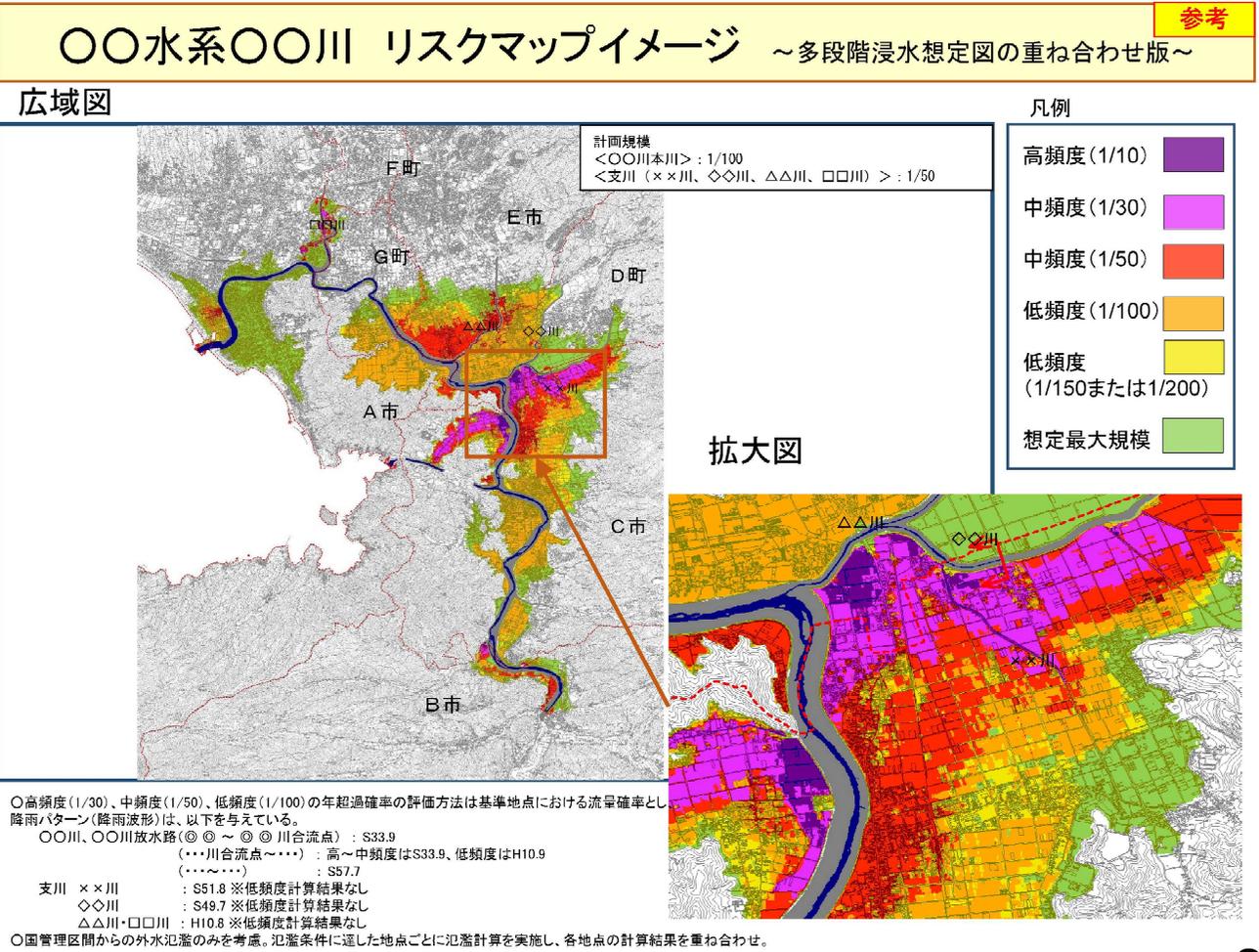
○国土交通省では、このような洪水被害も踏まえ、全国的な取り組みとして、水災害リスク情報の更なるデータの充実とその活用(まちづくりや住まい方の工夫、将来の宅地開発や企業の立地選択等)の推進に向け、想定最大規模降雨のみならず中高頻度の降雨(例えば10年や30年に一度程度発生する降雨)を想定した場合の水害リスク情報を重ね合わせ、浸水の頻度を示した「水害リスクマップ」の作成を進めることとしており、球磨川においても、作成することとしている。

○水害リスクマップの提示により、災害リスクを考慮したまちづくりや住まいづくりの検討をはじめとして、きめ細やかな企業BCPの検討、水害保険への水害リスクの反映の検討、より具体的な避難行動への活用が期待されている。

## 「水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン」(令和3年5月)

治水部局やまちづくり部局など関係者が連携して防災まちづくりに取り組むことができるよう、以下の項目について基本的な考え方を提示。

- [1] 多段階の頻度における浸水想定や河川整備前後の浸水想定等の防災まちづくりに活用できる水災害に関するハザード情報の充実
- [2] ハザードの特性や地域の状況に応じた地域ごとの水災害リスクの評価
- [3] 水災害リスクの評価に加え、地域の持続可能性やまちづくり全体との総合的なバランスを考慮した、防災まちづくりの方向性の決定
- [4] 水災害リスクが存在する区域における、リスクを軽減又は回避するための総合的な対策の検討及び地域の関係者との合意形成
- [5] 流域・広域の視点からの関係者の連携体制の構築、人材の確保・育成等



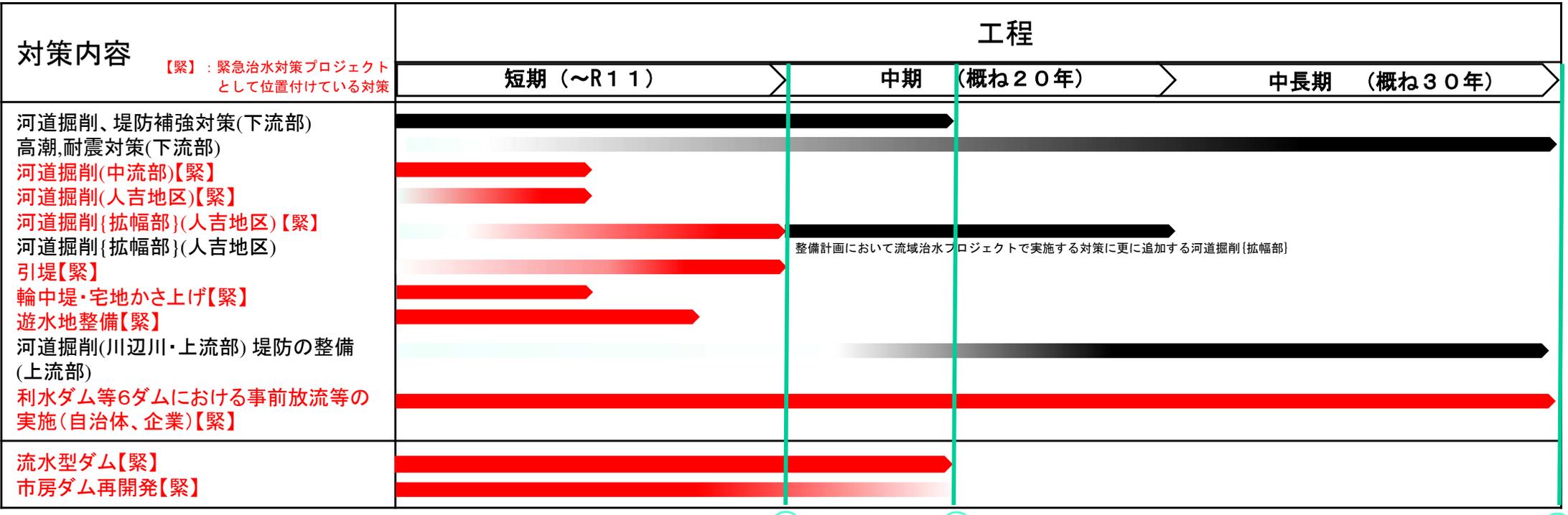
# 河川整備計画のロードマップについて

○球磨川水系河川整備計画について、球磨川水系緊急治水対策プロジェクトに位置づけられた整備メニューを優先的に実施しつつ、上下流バランスを確保しながら整備計画メニューの完了を目指す。

**【整備段階】**

- 短期(～R11) : 緊急治水対策プロジェクト完了
- 中期(概ね20年) : 下流部河道掘削・堤防補強、流水型ダム、市房ダム再開発、人吉地区河道掘削(拡幅部)の完了
- 中長期(概ね30年) : 河川整備計画の河川整備完了

<p><b>【短期】(～R11)</b></p> <p>○緊急治水対策プロジェクト河道整備完了</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中流部 輪中堤・宅地かさ上げ等完成</li> <li>・人吉地区 河道掘削完成</li> <li>・人吉地区 河道掘削{拡幅部}【緊】完成</li> <li>・引堤完成</li> <li>・遊水地完成</li> </ul>	<p><b>【中期】(概ね20年)</b></p> <p>○概ね20年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流部 河道掘削、堤防補強対策完成</li> <li>・人吉地区 河道掘削{拡幅部}完成</li> <li>・流水型ダム完成</li> <li>・市房ダム再開発完成</li> </ul>	<p><b>【中長期】(概ね30年)</b></p> <p>○概ね30年 河川整備計画完了</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流部 高潮耐震対策完成</li> <li>・上流部 河道掘削、堤防整備完成</li> <li>・川辺川 河道掘削完成</li> </ul>
---	---	--



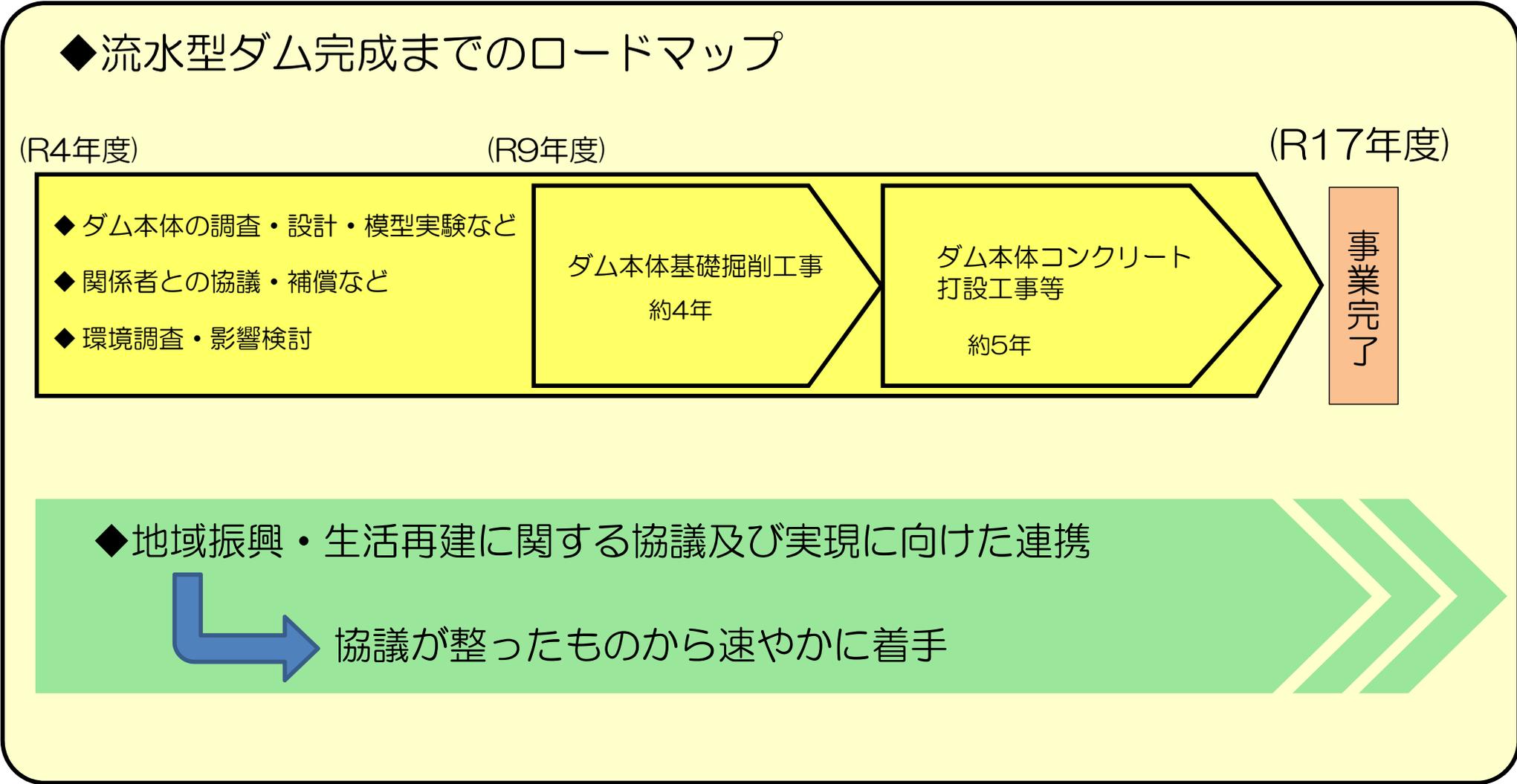
① ② ③

※上記の①～③は浸水範囲及び浸水深を算出したリスク評価時点。なお、中期段階でのリスク評価は、洪水調節施設の整備により大きく変わるため、流水型ダム完成段階で評価。  
 ※市房ダム再開発については、流水型ダムの完成時期と同時期で評価しているが、今後の調査検討により変わる可能性がある。

○流水型ダムの工期については、他ダムの事例等を参考に、調査・設計や関係者との調整に5年、ダム本体関連工事9年(基礎掘削4年、本体打設5年)と想定し、令和17年に事業完了と設定している。

○なお、以下のロードマップは概略検討に基づいて設定しており、今後も工期短縮に努める。

### ◆流水型ダム完成までのロードマップ



※上記の流水型ダム完成までのロードマップは、今後の関係者との調整等により変更の可能性がある。